

時間割コード	G2B45904	開講年度	2026				
授業題目	共生のための人権研究ゼミ					担当教員	小池 洋平
英文授業名	Seminar on Human Rights						
単位数	2	講義期間	後期	曜日・時限	木曜・3時限	対象学生	全
講義室	共通教育 2 3 講義室		授業形態	演習	遠隔授業科目	備考	
信大コンピテンシー	該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素					【授業の達成目標】	
	大学D P 的確に情報を収集し、理解し、発信する力					自分が関心のある人権問題に関する情報を適切に収集、分析し、それを他者に説明できるようになる。 価値観の異なる人々が共生できる社会を実現するために、人権の視点から解決策を提案できるようになる。	
(2)授業で学べる「テーマ」	多文化協働						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	2026年度は《 AIとの共生 》をテーマに、人権の観点から検討したいと思います。 近年、AIが一般ユーザーにも広く使用されるようになり、さまざまな問題や変化を生じさせています。これは人権領域についても当てはまります。たとえば、AIを利用した監視技術によるプライバシー侵害の問題、AIが学問の自由に与える影響、生成AIを利用したフェイク動画の問題などです。 こうした問題がある一方、今後、私たちの社会がAIを完全に放棄することは難しいでしょう。そこで、ここで今一度、《 AIが社会にもたらす悪影響を抑えるための規範 》や《 我々はAIをどのように使っていくべきなのか 》を考える必要があります。 そこで、こうした問題について各自の興味関心に従って調査・研究（リサーチ）し、その成果を共有・討論していきたいと思います。 2026年度は「対面回」と「オンライン回」が混在します。特に「（４）授業計画」と「（８）履修上の注意」欄をご確認ください。						
(5)授業のキーワード	人権，憲法，憲法訴訟，課題発見・解決，コミュニケーション，グループワーク						
(6)授業計画	第１回 ガイダンス【対面】 第２回 自分の問題意識を「見つける」【オンライン】 第３回 自分の問題意識を「深める」【対面】 第４回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第５回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第６回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第７回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第８回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第９回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第10回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第11回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第12回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第13回 《AIとの共生》問題に関するゼミ生発表と討論【対面】 第14回 レポート執筆ガイダンス【オンライン】 第15回 まとめ／授業アンケート 第4回から第13回までの発表と討論の具体的な内容は、第3回で受講生と相談して決定します。						
(7)成績評価の方法	・発表（30点満点），討論への参加（30点満点），期末レポート（40点満点）を合計して評価する。 ・期末レポートでは，《AIとの共生》に関係するテーマを各自で設定し，それについて2500字程度で論じること。						
(8)成績評価の基準	■ 以下の基準に従い，合計点が90点以上で「卓越している」， 80 - 89点で「かなり上にある」， 70 - 79点で「やや上にある」， 60 - 69点で「その水準にある」と評価する。 1. 発表（30点満点） 授業目標 と の達成度を測るため，以下の基準で評価する。 選択したテーマに関連する文献・資料などを十分に読み込んでいるか（15点）。 私見の説得力（10点）。 発表方法の工夫（5点）。 2. 討論への参加（30点満点） 授業目標 の達成度を測るため，以下の基準で評価する。 他の受講生の発表を理解する努力をしているか（各回1点）。 他の受講生の発表に対して自らの考えを積極的に発言しているか（各回1点）。 3. レポート（40点満点） 授業目標 および の達成度を測るため，以下の基準で評価する。 学術的なレポートに相応しい体裁をとれているか（10点）。 私見を論理的に示すことができるか（10点）。 私見を説得的に示すことができるか（10点）。 発表および討論を踏まえて，私見を深めることができるか（10点）。						

(9)事前事後学習の内容	・自分が設定したテーマについて発表の準備をすること（週2時間）。 ・教員や他の受講生が指定した文献や資料を事前に読んでくること（週2時間）。 ・この授業は90時間の学修を必要とする内容です。従って、60時間以上の時間外学習が必要となります。
(10)履修上の注意	■ 2026年度の注意事項 ・この講義は【対面回】と【オンライン回】が混在します。どの回が対面／オンラインかは、上の授業計画をご確認ください。 ・【対面回】については、シラバスに掲示された講義室にて、通常の講義を行います。 ・【オンライン回】については、eALPSに動画を掲載するので、そちらを視聴してください。 ・ハイフレックス型（対面での講義をオンラインで配信し、学生が受講方法を自由に選べる）ではないので、ご注意ください。
(11)質問、相談への対応	・授業前や授業後に教室で質問を受け付けますので、気軽に声をかけてください。 ・メールでも質問や相談を受け付けます。eALPSに掲載されている連絡先にメールで質問をお送りください。
(12)授業への出席	この授業は、すべての回に出席することを前提とします。
(13)授業に出席できない場合の学修の補充	「信州大学における授業の出席に関する要綱」第4が定める「学修の補充の対象とする事由」により出席できない場合は、共通教育履修案内に記載されている方法により補充を受けるための申請を行ってください。 その上で、eALPSに掲載されている連絡先にメールを送り、補充の指示を受けてください。
【教科書】	指定しない。
【参考書】	イーサン・モリック,これからのA I、正しい付き合い方と使い方,9784041155271,KADOKAWA,2024年。 宇田川敦史,アルゴリズム・A Iを疑う,9784087213638,集英社,2025年。 奥真也,A Iに看取られる日,9784022953346,朝日新聞出版,2025年。 川原繁人,言語学者、生成A Iを危ぶむ,9784022953384,朝日新聞出版,2025年。 田口善弘,知能とはなにか,9784065384671,講談社,2025年。 谷口忠大,僕とアリスの夏物語,9784000297097,岩波書店,2022年。 波頭亮,文学部の逆襲,9784480074317,筑摩書房,2021年。 福岡真之介ほか編著,A Iプロファイリングの法律問題,9784785730482,商事法務,2023年。 フランチェスコ・マルコーニ,A I記者,9784833424523,プレジデント社,2024年。 ポール・シャーレ,A I覇権4つの戦場,9784152103345,早川書房,2024年。 マーク・クーケルバーク,AIは民主主義の敵か,9784791777495,青土社,2025年。 レイ・カーツワイル,シンギュラリティはより近く,9784140819807,NHK出版,2024年。